



広島県知事賞

リフォーム部門



リフォーム部門

新築部門

第12回 ひろしま 住まいづくり コンクール 2021 作品集

「ひろしま住まいづくりコンクール」は、
住む人の笑顔とプロフェッショナルたちの成果を
広く伝える場所です。



新築部門

空き家再生部門

空き家再生部門



主催 広島県
ひろしま住まいづくり支援ネットワーク

広島県, 呉市, 福山市, 三次市, 東広島市, 廿日市市,
(独法)住宅金融支援機構中国支店, (公社)広島県建築士会,
(一社)広島県建築士事務所協会, (公社)日本建築家協会中国支部,
(一社)広島県建築センター協会, 広島県住宅産業三団体協議会,
(一社)日本住宅リフォーム産業協会中国四国支部



後援 中国新聞社, NHK広島放送局, 中国放送,
広島テレビ, 広島ホームテレビ, テレビ新広島,
広島エフエム放送, 国土交通省中国地方整備局

事務局 ひろしま住まいづくり支援ネットワーク
「ひろしま住まいづくりコンクール2021」事務局
(公社)広島県建築士会 事務局
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ5F
TEL082-244-6830(代)



INDEX

- 01-02  広島県知事賞
ほうじょうじ
法成寺の家
石川 晋次さん [石川晋次建築設計事務所]
- 03-04  リフォーム部門 最優秀賞
Old & New 古くて新しい古民家のカタチ
下田 卓夫さん [株式会社ラバーン]
- 05  リフォーム部門 優秀賞
木と土の夫婦で暮らす箱
田村 篤さん [田村建設建築設計事務所]
- 06  リフォーム部門 奨励賞
「環境との連続」 一作庭するように設計する
小野寺 匠吾さん [株式会社小野寺匠吾建築設計事務所]
- 07-08  新築部門 最優秀賞
里山でおおらかに暮らす家
永本 清三さん [永本建設株式会社]
- 09  新築部門 優秀賞
山手の家 —palm hair—
伊瀬 和裕さん [株式会社テトラワークス]
- 10  新築部門 奨励賞
田園風景に佇む次世代型住宅
中土居 美代子さん/久保田 孝さん [sunoma]
- 11-12  空き家再生部門 最優秀賞
上条 (sorajo) の家 海が見える山の家
取釜 佐和さん [南清水建築構造事務所]
- 13  空き家再生部門 優秀賞
海が見える 家族の「好き」を詰め込んだ家
寄元 エミさん [株式会社やまと住研]
- 14  空き家再生部門 奨励賞
If you just smile. 一時を超えて繋がる思い
今村 進吾さん [オールハウス株式会社]

本作品集に掲載の1㎡当たりの工事費の目安については、次の点に注意して参考にご覧下さい。
※外構工事費は含まれていません。
※リフォーム部門・空き家再生部門の作品は工事床面積、新築部門の作品は延床面積を基準としています。

～ ごあいさつ ～

昨今のコロナ禍において、家で過ごす時間が長くなる中、「住まい」を通してライフスタイルを充実させることに注目が高まってきていると感じています。

流れゆく川のそばに立ち自然を感じられる都心のマンションで、ショッピングや文化芸術、グルメ等の都市型サービスを楽しんだり、休日には周辺の田園風景を眺めながら好きな本を読んだり、島や山等の豊かな自然の中でサイクリングをしたり、または近くの海で釣りをして家で調理をしたりと、広島では、都市と自然が近接した強みを活かし、多様なニーズに応じた住まい方がリアルに想像することができます。

このような魅力ある住まい方をかなえる住まいづくりは、コロナ禍に留まることなく、将来に渡って広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かったと思えるような、皆様の充実したライフスタイルの実現の一助となることでしょう。

ひろしま住まいづくりコンクールは、いつまでも広島県に住みたいと思える魅力のある住まいづくりの実現を1つの審査のポイントとしており、住まいづくりにおける住み手の住まい方にも着目しています。平成22年(2010年)から、実施しており、今年度で12回目を迎えたこのコンクールには、40作品(リフォーム部門15作品、新築部門19作品、空き家再生部門6作品)の応募をいただき、審査委員会による厳正な審査の結果、広島県知事賞をはじめとする10点の受賞作品を選定いたしました。

このたび広島県知事賞を受賞した作品は、住居と建築設計事務所を併せ持った新築の住宅で、住居と事務所が双方から全開口で庭とつながる配置となっており、その庭が、休日に焚火をして食事をする場、また、樹木や花、そこに集まる虫や鳥とのふれあいを子供に与える場や暮らしと仕事の場をほどよい距離感でつなぐ場として計画されている作品です。

また、各部門の最優秀賞には、地域景観を保ちながら新しいファサードデザインとし、古民家特有の冬の寒さに対し、断熱性を確保することで省エネ性の高いリフォームを実現した作品、リビングを吹き抜けとし、隣接する里山の風景を楽しめる大開口を設ける等、内と外のつながりを感じられる開放的な住まいを目指した、新築の作品、過疎化が進む離島において、地域の中で繋がりを持ちたいと思い、島内在住の大工、左官、設備士に施工を依頼して、築80年を超える空き家であった古民家を改修再生した作品が選ばれています。

この作品集では、受賞した10作品について、「住まいづくり」に対する住み手の理想や様々な希望、設計者や施工者等のノウハウや創意工夫、住み手と創り手がともに創り上げた「住まい」をまとめております。

皆様の住まいづくりの参考となり、魅力ある住まい方の実現に向けたきっかけとなれば幸いです。

最後に、このコンクールに応募いただいた多くの皆様、厳正な審査をしていただいた福田委員長をはじめとする審査委員会の皆様、そして、御協力いただいた関係団体の皆様に対して、厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

広島県都市建築技術審議官 上田 隆博



法成寺の家

福山市



床面積以上の広がりを感じる。壁は微妙な色合を調合した梨地の左官仕上として光をやわらかに拡散させている。



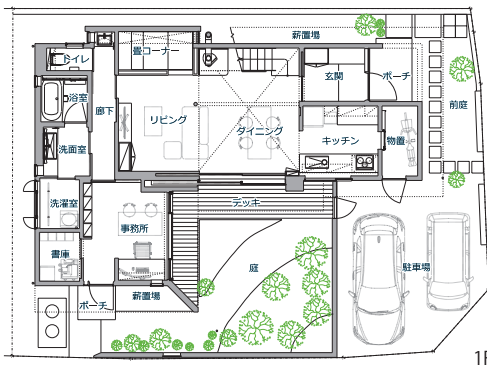
庭を囲む塀や樹木によってプライバシーが守られながら、住まいの暖かな雰囲気外部にも伝播する。



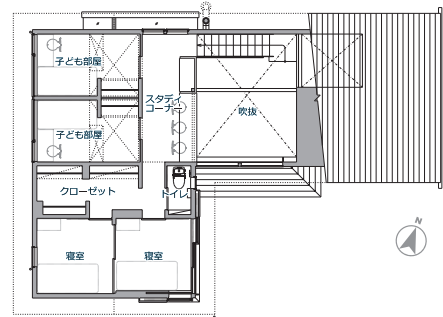
団楽の場と仕事の場でつながりを感じながら、ほどよい距離感を保っている。



道路に対して軒を低く構えて、軒下に植栽や枕木の欄(腰掛)、鎖樋を配して、道行く人に穏やかな印象としている。



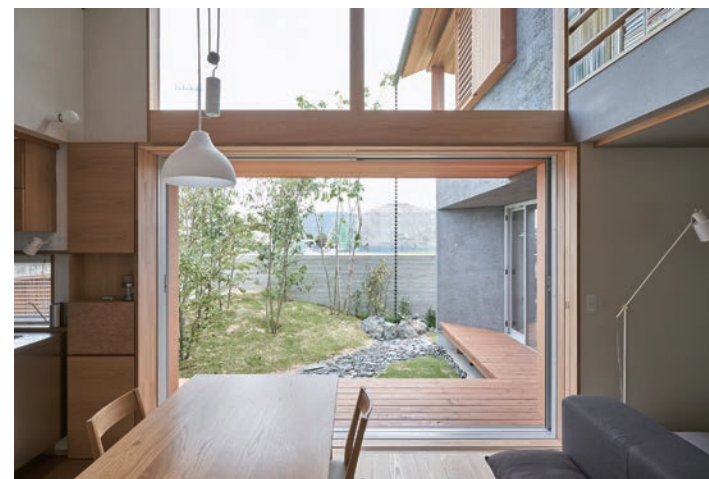
1F



2F



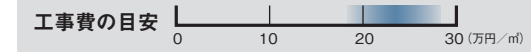
庭で焚火ごはん。



サッシと障子を引込んでフラットなデッキで庭とつながる。テーブルをデッキに移動して食事を。



川に見立てた石敷きの路地、丘と山を配して、小さいながらも自然の立体的な景観をつくっている。



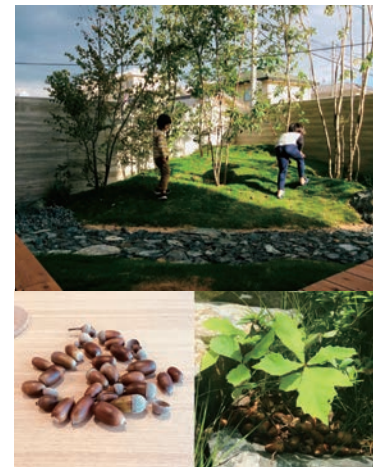
工事費の目安

選評 審査委員 山田孝延

農住混在の近郊住宅地に建つ事務所併用住宅である。1階にオフィスとリビング、2階に寝室と子供室を配置し、外壁、間仕切り、建具、土間、緑側等を駆使し領域をつくり、ディテールに至るまで細やかな創意工夫と技術力が発揮されている。L字形家屋に囲まれた中庭は、道路と住宅、オフィスとリビングの相互に「見る」「見られる」関係性を考慮し、RCの塀と開口を操作して、見事な屋外空間を創っている。RCの塀は建築の部であり、他の境界は枕木、緑石で区画され、近隣に開放されている。「職住一体型住宅」の参考にもなる、優れた建築である。

選評 審査委員長 福田由美子

住宅と事務所は独立しながら庭で緩やかに接し、限られた敷地の中で職と住がうまく両立している。屋根形状や軒高、庭を囲い込んだ塀の位置やその高さ、駐車場も含めた外構の設えなどが緻密に考えられており、田畑に囲まれた周辺環境と見事に調和している。また、自然光の取り入れ方や、家族間の視線の交わりなどに細かな創意工夫がある。地元の信頼できる作り手たちとの共同作業が随所に見られ、地域に根差した家づくりの好例と言える。



山採りの木々を愉しむどんぐり拾い。庭隅で発芽する様子を観察。



庭を通してキッチン・ダイニングの様子が伝わる。来客用の席が最も良い角度で庭を眺められる。

創意工夫点 (石川晋次さん)

福山市北部の敷地に建つ、住居と設計事務所を併せ持った住宅である。建物をL字型に配置して、前面道路に対してプライバシーを確保するため、建物と回転対称状のL字型に塀を設けて庭を囲い込み、住居と事務所の双方から全開口で庭とつながる配置とした。庭は、暮らしの場と仕事の場をほどよい距離感でつなぐ空間的余白や、住まいに自然の潤いをもたらす感覚的要素としてのみではなく、その場を使って活動することを企図している。室内と庭の意識的距離、量的ボリュームを近づけ、相互が均等に作用する、ひとまとまりの領域をつくらうとした。

建築主	石川晋次さん
設計者	石川晋次さん
設計事務所	「石川晋次建築設計事務所」
TEL	(084) 975 8225
施工者	自主施工
企画立案者	設計者と同じ

Old & New
古くて新しい古民家のカタチ



トイレ、洗面を近くに配置し、導線にも床下エアコンの吹き出し口を設けヒートショック対策もしている。



after
建具を閉めれば個室としても使え、開ければ通路になったりと可変的に使えるよう工夫している。



before
日当たりの良い南側の和室だが、一日中カーテンを閉め切って暗い部屋となっていた。



元は使われていない暗い部屋だったが、リビングに面する小上がりを畳とし、開放性と利便性が広がった。



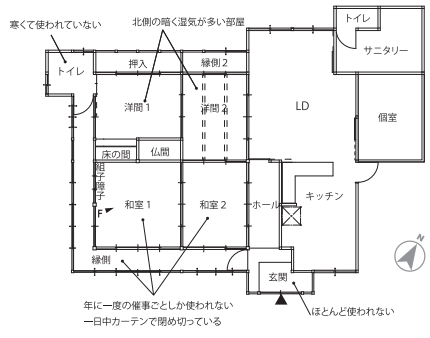
焼杉板と石州瓦色の目板押さえ、そして斜めに伸びた庇が和モダンな印象を与える。



地域の風景を切り取るように白いボックスで囲い、この家の内と外を繋げる象徴的な場所となった。



石州瓦と焼杉の目板押さえが調和し、白いボックスが外観に新鮮さを与える。



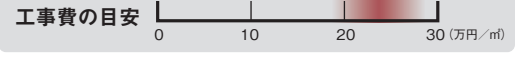
before
年一度の催事しか使われない
一日中カーテンで閉め切っている



鴨居や建具は再利用し、真っ赤な壁紙や塗り壁で特別な空間となった。

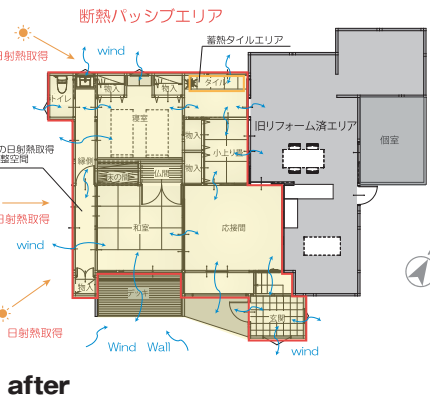


ボックスデッキから伸びた庇が玄関へと導いてくれる。



選評 審査委員 飯根拓
田園風景が残り、近所付き合いも残る、街の外れに佇む築約百五十年の古民家を、親子で住み継ぎ、寒さを克服した事例である。構造を工夫することで自然エネルギーを上手に取り入れている。断熱材は外壁の外から包み込み、暖房は床の吹き出し口につながる二重底に、暖気を送る方法だ。デッキの白壁は家の内外を繋ぎ、人が集える場として高台の景気が楽しめる。限られた条件下で、独自のアイデアとチャレンジをうかがわれる好例である。

選評 審査委員 宮川裕壮
古民家の宿命ともいえる冬の寒さ対策に対して、家全体を温めるという手法をとらず、ある程度の区画を限定し、集中的に暖房するという事で生活空間を効率的に快適性を実現しており、壁掛けエアコンを床下に設置し、そこからダクトを通して各部屋に温風を送り込むことで、通常の床暖房と比べ経済的となっている。また、特徴的な白いボックスに囲まれた縁側が、庭と室内を上手く繋ぎ、家族だけでなく地域の人が集える場として活躍することである。



after



西の縁側は冬に日射取得し、夏はすだれで日射遮へいすることで部屋の温度を調整する役割もある。

創意工夫点 (下田卓夫さん)
築150年のこの古民家を魅力的に、快適に暮らし続けられる「古くて新しいOld & New」な古民家のカタチを提案した。外観は、石州瓦屋根の佇まいを残し、地域景観を保ちながら新しいファサードデザインとした。日常使われていなかった仏間、床の間、縁側は家族や友人、地域の人達が集える場とした。古民家特有の冬の寒さに対し、断熱パッシブエリアを定め、断熱性能は国が定める省エネ等級4に対しUA値0.68W/m²Kと大幅に達成した。室温の安定による暖房エネルギー負荷の削減により省エネ性の高いリフォームとなった。

建築主	非公表
設計者	下田卓夫さん (株)ラーバン
TEL	082-92664188
施工者	高谷竜一さん (株)ラーバン
TEL	082-92664188
企画立案者	設計者と同じ



木と土の夫婦で暮らす箱

広島市



壁全面の障子から光が降り注ぎ、街中の住宅密集地であっても自然を感じられる。



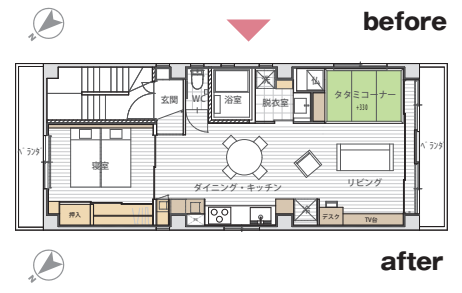
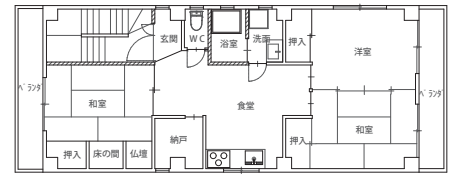
3帖の小上がりは座ったり、昼寝をしたり、洗濯物をたたんだり、何気ない暮らしを支えている。



キッチン機能を一列に集中させることでダイニングを広く確保している。



TV台・デスク・食器棚と連続した造作家具とすることで一体感を持たせている。



創意工夫点 (田村 篤さん)
街中のRC3階建ての1フロアを、ご夫婦2人のための住まいとしてリノベーションを行った。小割されていた空間をワンルームとしてつなげ家中に光と風を導くこと、木や土という自然の素材に包まれた身体に優しい空間とすること、小さな居場所をちりばめ暮らしの中に快適な距離感をつくりだすことにより、心地よい暮らしの箱となることを目指した。RC3階建てという形式に世代を越え住み継いでいく可能性を感じている。

建築主	非公表
設計者	田村 篤さん [田村建設建築設計事務所] TEL(082)8485110
施工者	田村 司さん [株田村建設] TEL(082)8485110
企画立案者	設計者と同じ

選評 審査委員 井本健一
既存市街地に建つRC造3階建ての二世帯住宅。世代交代を機に子世代が3階から2階に住み替えることになり、計画されたリフォーム事例である。限られた空間の中で、諸機能を両サイドに集約し、中央に大空間を実現したシンプルなプランとなっている。障子の持つ特性をうまく生かし、視覚的に心地よい明るさを取り入れ、無垢フローリングとシラス土の壁天井や、収納をうまく組み込んだ小上がりの量数で、RC造を感じさせない上質な空間つくりが成功している。狭小RC建物のリフォームの好例といえる。



「環境との連続」——作庭するように設計する——

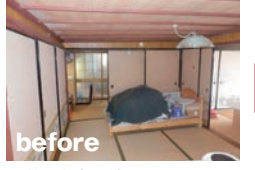
三原市



既存の床組みを取り払うと当時の三和土が表れた。居間には既存の腰板付障子を転用している。



以前は和室の続き間。



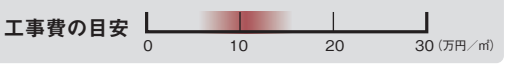
以前は和室の続き間。



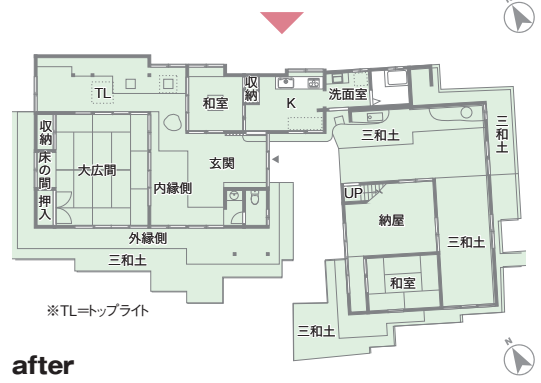
天窓から柔らかく光が差し込む。大広間への間仕切りには既存ガラス障子を転用することで室内へ光が入り込む。



増改築を繰り返している世代ごとの構造部材で不要なものを整え、施主の思い入れのある柱などは転用した。



三和土が外部から建物を取り囲むように配置され、そのひと廻り小さい縁側を奥行きを変えながら設置している。



創意工夫点 (小野寺 匠吾さん)
農家という周辺環境と関係を持った造られ方を拡張するように、農家としての動線や構成を現代の暮らしに合わせ見直した。具体的には建物内に土間を引き入れ減築しつつ、屋根形状は変えずに既存の三つの建物を小規模かつ3つのかたまりとして再構築した。各かたまりの関係性を整理し、母屋以外の建物も広々と使えるように抜けを造った。

建築主	有田 千幸さん
設計者	小野寺 匠吾さん [株小野寺匠吾建築設計事務所] TEL(03)64127670
施工者	大賀 渡さん [有田建設] TEL(082)2326483
企画立案者	設計者と同じ

里山でおおらかに暮らす家

広島市



ガルバリウム鋼板と杉板張りの外壁に片流れ屋根を合わせ、別荘のような外観とした。



将来的に2つに区切ることができる子ども部屋。力強い柱や梁が子どもの成長を見守る。



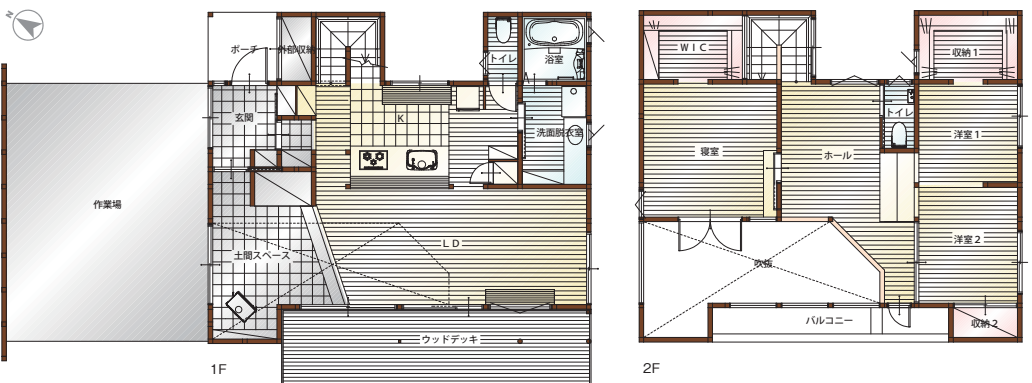
春には新緑、秋には紅葉を楽しめる2Fホールの絶景ポイント。2階は敢えてフロアごとに段差を設け、リズミカルな空間とした。



吹き抜け上部まで木組みを見渡すことができるLDK。プライベートな里山の景色を楽しみながら生活ができる。



土間には薪ストーブがあり、掃き出し窓から直接薪を運び入れることができる。



屋根のかかった作業場は、日差しを避けながらの外遊びや、薪のストック場所といった多様な使い方ができる。



内部の柱・梁、垂木と構造材の多くを現しとし、間仕切りを少なくした。

選評 審査委員 豊田 隆雄
自然を感じられる場所です。子育てをしたことのある豊田は、塀を設けない建築協定の土地に周囲の里山を取り込み、県産材を伝統工法で組上げた木のぬくもりと自然を感じられる家である。外観は金属板と木材でしつらえ、雨掛り部への配慮と質感の変化を融合している。内部はリビングと一体となった土間の吹抜け部分に薪ストーブを設置し熱循環を図っており、外断熱をするなど住環境への配慮もある。環境と調和した家として評価される。

選評 審査委員長 福田 由美子
里山に近接して開発された分譲地に建つ、県産木材をふんだんに使用した住宅である。現場での手刻みにこだわった構造材、床、天井などから、木材の美しさ、力強さが感じられる。また、LDKから土間、半屋外の作業場へと連続するのびやかな空間は、多様な家族のアクティビティを引き出す。外周りは作りこみすぎず、室内から里山の風景や木漏れ日を楽しめることができ、自然の移ろいの中で家族の成長とともに住まいも変化していく楽しさを秘めている。



開放的な気分で料理ができるキッチン。キッチンを中心に玄関、水回りへと回遊できる動線とした。



家族の気配を感じながら生活ができる開放的な間取り。目が離せない月齢の子どものと過ごす日々も安心できる。

創意工夫点 (永本清三さん)
プライベートな里山に隣接する立地を活かし、「内と外のつながり」を感じられる開放的な住まいを目指した。吹き抜けには、南西に広がる里山を眺める大開口を設け、庭が美しく見えるようにリビング・キッチン・2Fホールを配置した。さらに土間デッキからすぐ外に出られるようにした。
広島県産の構造材をより美しく現わしにするため、加工は手刻みで行った。リビングの化粧梁からは、金輪継ぎなど伝統的な継ぎ手を見る事ができる。

建築主	非公表
設計者	永本清三さん 〔永本建設株式会社〕 TEL(0829)316655
施工者	設計者と同じ 〔永本建設株式会社〕 TEL(0829)316655
企画立案者	永本和磨さん 〔永本建設株式会社〕 TEL(0829)316655



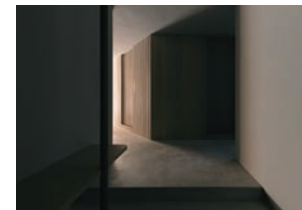
ふたつの庭とつながるLDK。光と風が通り抜けR天井に包み込まれるような居心地の良い空間となった。



県道から店舗側のファサードを見る。店舗側の庭が大通りと店舗を柔らかく繋ぐ。



北庭に面する、眺望と通風の確保を目的とした木製窓。レースカーテンを兼ねた麻の横引き網戸を製作した。



玄関からリビングへの廊下は、あえて暗がりの雰囲気をもった空間とした。光に導かれる先はリビング空間。



南北に設けられた窓から視界と風が通り抜け、R天井に反射する光が時の移ろいを感じさせてくれる。



建築主	非公表
設計者	伊瀬和裕さん [株]テトラワークス TEL(084)9999717
施工者	設計者と同じ
企画立案者	設計者と同じ

写真撮影者：貝出 翔太郎

創意工夫点 (伊瀬和裕さん)
比較的交通量の多い県道に面した敷地に計画した店舗併用住宅である。道路面に対して開くべき店舗部分とプライバシーを守るべき居住部分という、見相反するふたつの面を両立させるべく、シンパルな切妻屋根で構成された建物を「くの字」に変形させ敷地を二分させた。敷地内につくりだした南庭と北庭に面してそれぞれの空間を構成していった。外観においては店舗併用でありながら落ち着いた佇まいとし、周囲の環境にもなじみ、長い年月を経ても飽きの来ないデザインとなるよう心掛けた。

選評

審査委員 岩田 忠一
県道に面して集客を求められる店舗部分と、暮らしやすいプライバシーを守りたい居住部分の相反する要求に対して建物をくの字に配置し南と北側に庭を設けそれぞれの空間を創り出した店舗併用住宅である。住居専用玄関からモルタル仕上げのステップ廊下を通り無垢床材仕上げのリビングダイニングへのアプローチ、玄関にR壁リビングをR天井とすることにより日々の同建物での生活で店舗と住まいの気持ちの切り替えと和らぎを感じることができるといった。

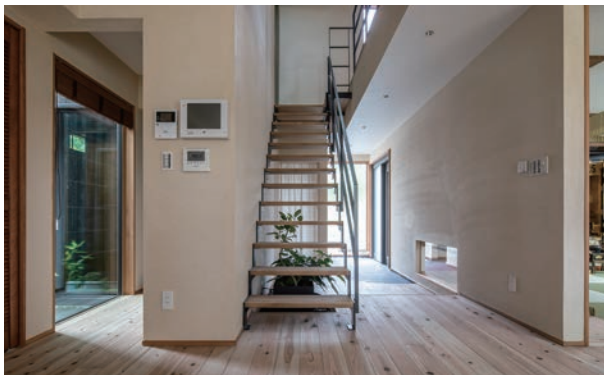


田園風景に佇む次世代型住宅

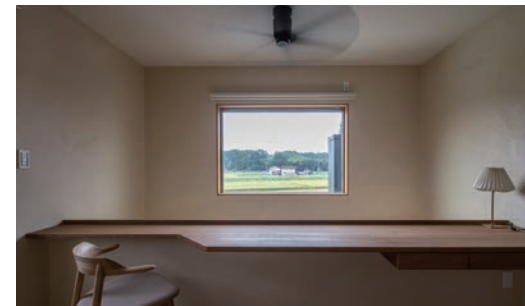
東広島市



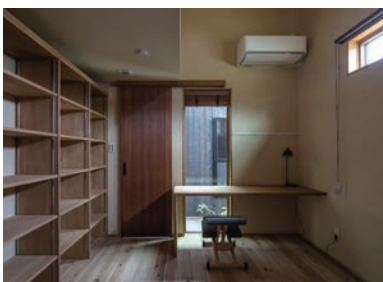
LDKに入ると目前に広がる田園風景。角度に変化をつけたことでより一体感が生まれた。



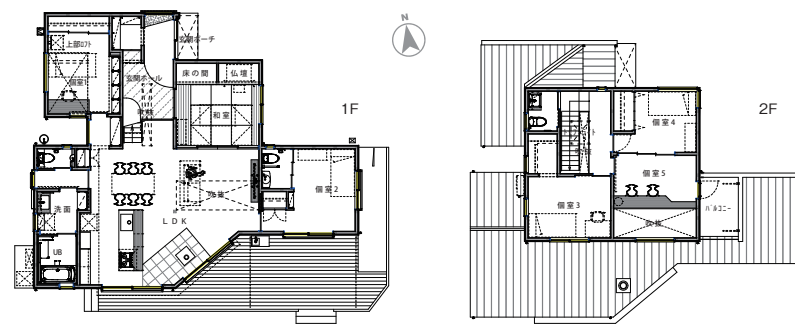
北入りの玄関は天窓からの光に加え、LDKと空間をひとつにすることで明るく開放的な場となった。



吹抜けに面する窓は移りゆく景色を切り取り、自然を感じながら読書をするなど、穏やかな時間が流れる。



幹線道路に接する面は開口部を抑え、高窓や坪庭を設けることで静かで落ち着きある空間に仕上げた。



北面の交通量の多い道路側は、開放的な南側とは対照にクロスな印象で変化をつけた。

創意工夫点 (中土居美代子さん)
南側に田畑が広がる立地を活かし、大きな開口部とウッドデッキを設け田園風景を常に感じられる空間とした。対照に北側の幹線道路側は開口部を最低限に抑え、プライバシーの確保や防音に配慮した。
自然を感じ穏やかに過ごしたいというご要望に加え、環境問題の観点から土に帰る素材や地元で作られる柿渋・瀬戸漆喰といった地域材を使った。また防災対策としてV2Hや薪ストーブなどの設備機器も積極的に導入した。

建築主	非公表
設計者	中土居美代子さん / 久保田孝さん [anonmal] TEL(0823)830812
施工者	河名純一さん [株]トランスワークス TEL(082)8311255
企画立案者	設計者と同じ

写真撮影者：山口 正人(やまぐちまさと)

上条(sorajo)の家 海が見える山の家

大崎上島町



海が見える絶好のロケーションを活かすため、建具を大型の透明ガラスに変更。ペアガラスで断熱性能も向上。



ダイニングは和室とフラットに繋がりつつ、床仕上げや天井高さの違いでやんわりと仕切る。



2階は天井高さが低いので子供専用。大人なら頭をぶつける柱梁が、ジャングルジムのようになる。



趣ある木製ガラス建具。内部建具はそのまま再利用し、外部建具は室内間仕切りに転用して使い続ける。



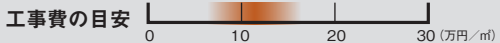
瓦屋根と土壁の意匠は継承し、建具を全て交換した。背後の山に溶け込むよう1階建具は木製とした。



既存の流しと竈門は使用可能。薪をくべて羽釜で炊いたご飯の味は格別。



小さく暮らすに当たり、壁付けキッチンとラウンドテーブルは相性抜群。造船所のケールドラムを廃材利用。

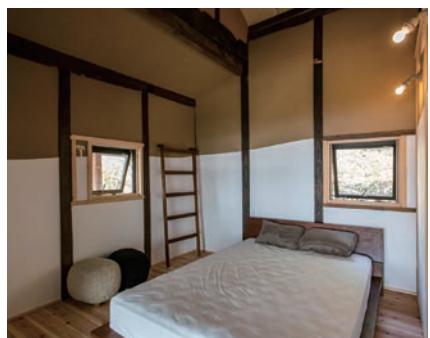


選評 審査委員 場弘明
瀬戸内の美しい島々と海が見渡せる素晴らしい景観を有する空き家。内外の空間を柔らかく繋ぐ縁側改修などの設計上の粋な工夫により再生した素晴らしい事例であるが、併せて興味深いのは、子供が将来島を離れる事を想定し、今後10年間のライフスタイルに合わせ、生活機能を集約小さく暮らすという提案である。古民家が持つ低い、暗いなどのマイナス要素は、小さなお子さんの想像力を掻き立てる僅かな工夫やメリットに変換されており、コストのかかる大規模な改修に依らない地域の風土に根差した豊かな住まい方を実現している。

選評 審査委員 栗崎 真一郎
離島の海が見える空き家を改修した住宅で、住むことへの力強さを感じさせる事例である。縁側廻りの土間化、床下と天井の断熱、建具のペアガラス等最低限度の改修とし、つくり込み過ぎずに、寧ろ使いながらつくり続けていく手法は、空き家活用として有用である。また、地元の大工、左官、設備技士とのコラボレーションは、地元コミュニティの形成にも繋がっている。築80年の建物がさらに生まれ変わっていくことが想像される。



昭和初期の建物で、船大工であった前持主の祖父が建築した。



塞がれていた窓を復活させ、採光換気を確保。床下には換気口を設け、湿気対策を施した。

創意工夫点 (取釜 佐和さん)
築年数は80年を超え、10年以上空き家であった海が見える古民家を改修。背後には山があり、木と土で出来たこの家はいつか山に還るのだらうと感じた。改修に使用する素材も自然素材・無垢材でシンプルに仕上げるよう心掛けた。既存の躯体や小屋組は、子供達がかわくわくするような小さく狭くて面白い居場所所に利用することで、そこにある必然性が生まれた。施工は島内在住の大工、左官設備士に依頼し、荒壁を塗ってもらうワークショップを開催するなどして、地域に根付いた家づくりを目指した。

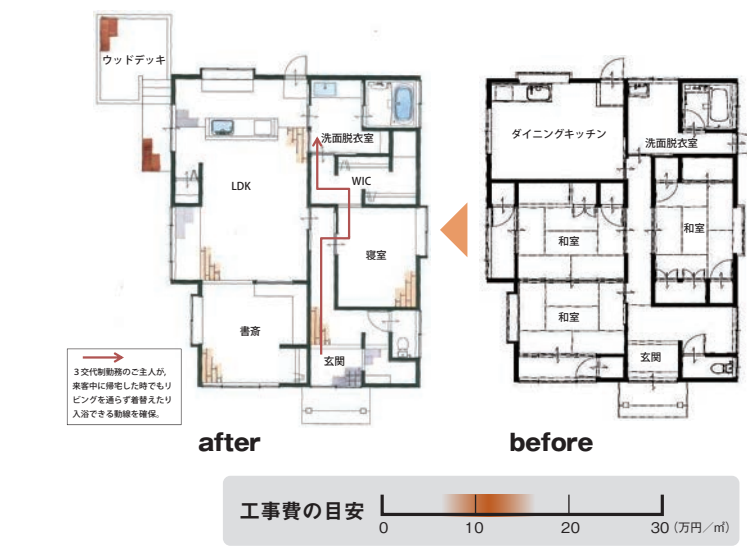
企画立案者	Gunvan Maillard (ぐんわんまいるだ) TEL(080)38840357
施工者	三村 圭次さん (株)河本建設 TEL(0846)644356
設計者	取釜 佐和さん (有)清水建築構造事務所 TEL(0846)227856
建築主	取釜 宏行さん

海が見える 家族の「好き」を詰め込んだ家

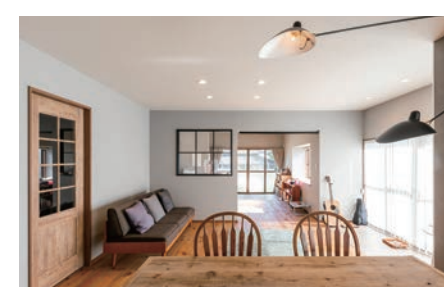
江田島市



DKと和室2室をつなげた大空間のLDK。



工事費の目安 0 10 20 30 (万円/㎡)



書斎スペースへつながる空間。室内窓で開放感を出しつつ、スクリーンで間仕切れることも可能。



夕日が落ちる海を眺めることができる、ご主人こだわりのウッドデッキ。



家族みんなで利用できる書斎スペース。将来的には子ども部屋にすることもできるように設計した。



奥様こだわりの完全造作キッチン。祖母から受け継いだ食器棚を置けるよう配置までこだわって設計した。



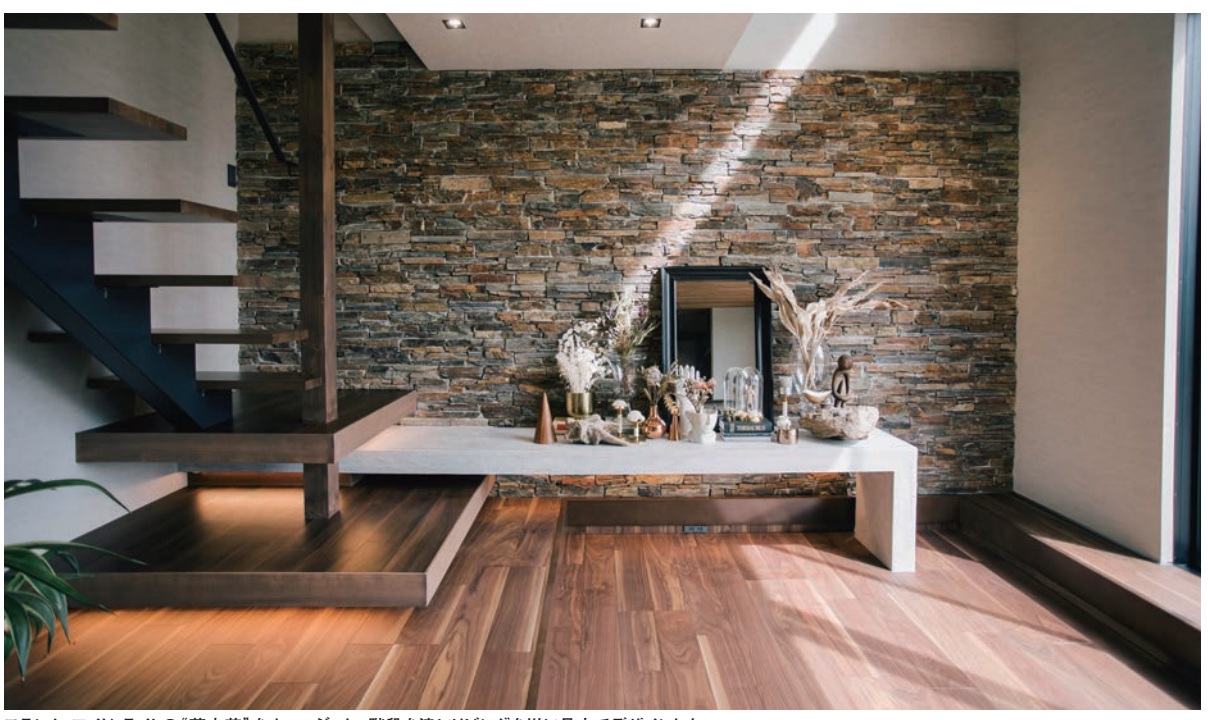
室内物干しも設置した広めの洗面脱衣室。ここから直接ウォークインクローゼット、そして寝室へと続く。

創意工夫点 (寄元エミさん)
海が見える平屋の家に住みたい。思い描いた家を探して、家族の「好き」で現代風に再生する。そんな思いで購入した中古住宅。ポイントとして細かく仕切られた間取りを、いつも家族を身近に感じられるLDKにリノベーションした。一角に書斎スペースも設け、ロールスクリーンで個室にすることも可能に。ご主人のお気に入りスポットは、家族の憩いの場として設置した海が見えるウッドデッキ。耐震診断をし、筋交金物・火打金物を施し、新耐震基準における上部構造評点1.0以上を取得することで、安心して住み続けられるようにした。

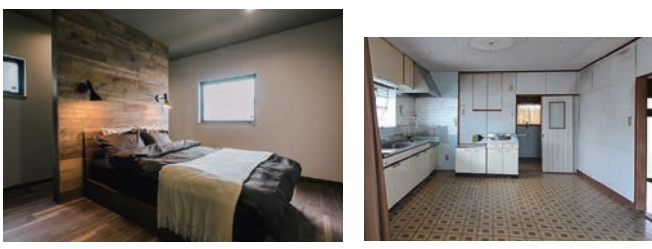
選評 審査委員 有我敦
本作品は、比較的状态の良い平屋の空き家を選ぶことで予算を抑えつつ、家族の生活時間帯の違いや効率的な家事に配慮した動線計画、海を見るための背の高いウッドデッキ設置など限られた空間の中で施主の要望と住みやすさを実現しようとした好例である。また、耐震診断を行った上での耐震補強とともに断熱施工も十分に行われており、空き家活用における模範的なリノベーション事例の一つではないかと思われる。

If you just smile. 一時を超えて繋がる思い

広島市



フランク・ロイド・ライトの“落水荘”をオマージュし、階段を滝にリビングを川に見立てデザインした。



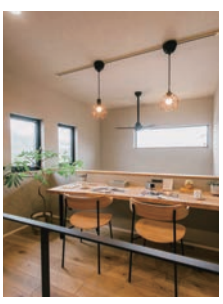
落ち着いたトーンの主寝室。ベッドヘッド背面の壁の裏側は、収納として使えるように工夫した。



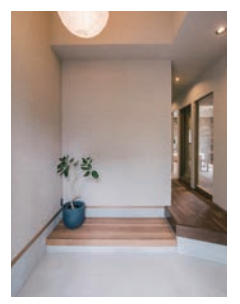
リビング・ダイニングは「会話」と「時間」をより一層豊かに楽しめる空間としてデザインした。



キッチン是对面タイプに再構築。オリジナルのリビングドアが全体の雰囲気さらに演出。



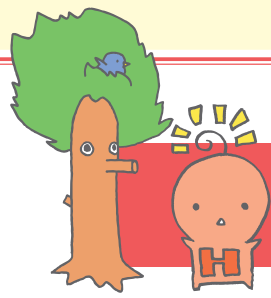
リビングの吹抜け上には、リモートワークにも役立つカウンタースペース。



家全体の換気効率を考え、玄関にも吹抜けを設けた。ホール横には便利な土間収納も設置。

創意工夫点 (今村進吾さん)
築41年の木造住宅を耐震・断熱性能を現在の新築基準相当にしながら、コロナ禍における新しい暮らし方に対応できる住宅とした。まず充分に換気できるような吹抜けを設け、テレワーク・スタディスペース、読書やヨガなどを楽しめるフリースペースを2階のホールに設けた。また『共存』というデザインコンセプトを設け、フランク・ロイド・ライトの“落水荘”をオマージュし、枯山水的な発想で、階段を“滝”にリビングを“川”に見立てデザインとして落とし込んだ。

企画立案者	設計者と同じ
設計者	今村進吾さん / 竹下純弘さん TEL(082)8901002
施工者	「オールハウス株式会社」 TEL(082)8901002
建築主	非公表



ひろしま住まいづくり コンクール2021 概要

趣旨・目的

住まいづくりの現場で日々生み出されている、建築主の想いや事業者の創意工夫にあふれた住まいは、これから住まいづくりをする人にも、とても参考になるものです。

このコンクールは、優れた住まいづくりを表彰し、住まいづくりの見本・参考事例として広く紹介することにより、本県の住環境のさらなる向上と住宅産業の活性化に寄与することを目的としています。

耐震や省エネルギー、本県の地域性などに配慮しつつ、建築主の求めるライフスタイルを形にした、新しい「ひろしまの住まいづくり」が発見できることを期待しています。

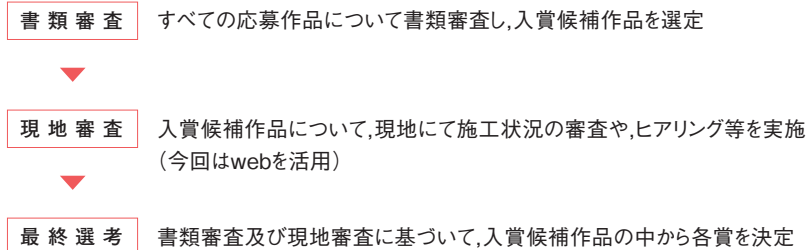
スケジュール

エントリー登録受付期間	令和3年9月1日～9月30日	最終選考	令和3年12月14日
作品応募受付期間	令和3年9月1日～9月30日	結果発表	令和4年1月19日
書類審査	令和3年11月2日	表彰式	令和4年3月28日
現地審査	令和3年11月17日、21日	受賞作品展(県内各市町)	令和4年4月上旬から約1年間

審査委員会 (敬称略)

委員長	福田 由美子 [広島工業大学 教授]
委員	栗崎 真一郎 [広島工業大学 教授]
委員	有我 敦 [(独法)住宅金融支援機構中国支店 支店長]
委員	井本 健一 [(公社)広島県建築士会 会長]
委員	豊田 隆雄 [(一社)広島県建築士事務所協会 副会長]
委員	山田 孝延 [(公社)日本建築家協会中国支部 表彰委員長]
委員	岩田 忠二 [(一社)広島県建築センター協会 理事長]
委員	宮川 裕社 [広島県住宅産業三団体協議会(一社)日本ツーバイフォー建築協会広島県支部 支部長]
委員	藪根 拓 [(一社)日本住宅リフォーム産業協会 中国四国支部 広報渉外委員]
委員	的場 弘明 [広島県 総括官(建築技術)]

審査の流れ



書類審査



現地審査(web活用)



最終選考

審査の観点 応募作品を次の観点から総合的に審査し、賞を選考

共通の観点

- 一般家庭で見本となる工事内容や価格で、いつまでも広島県に住みたいと思える魅力ある住まいづくりを実現している。
- 設計や工事の過程で生じた困難や問題を、創意・工夫や技術力によって解決している。

リフォームの観点

- 地域の気候風土に即した省エネ性能、耐震性の向上、バリアフリー化など、それぞれの住宅に合った改修技術を用いて品質の向上を図っている。
- 住まいに対する居住者の思いへの配慮、世代や世帯構成の変化への対応、自分らしいライフスタイルの実現など、多様なニーズに対応している。

新築の観点

- 高い省エネ性、耐震性、耐久性などを備え、長年にわたって活用することが可能な良質な住宅である。
- 県産材や自然素材の利用、地域や街並みとの調和、健康で快適な居住環境の実現など、多様なニーズに対応している。

空き家再生の観点

- 地域の気候風土に即した省エネ性能、耐震性の向上、バリアフリー化など、それぞれの住宅に合った改修技術を用いて品質の向上を図っている。
- 新たな居住者が、地域の気候風土やロケーションを生かし、自分らしいライフスタイルを実現している。

応募総数 40作品(リフォーム部門15作品、新築部門19作品、空き家再生部門6作品)

表彰作品

- ◎ 広島県知事賞 1点
- ◎ リフォーム部門 最優秀賞1点 優秀賞1点 奨励賞1点
- ◎ 新築部門 最優秀賞1点 優秀賞1点 奨励賞1点
- ◎ 空き家再生部門 最優秀賞1点 優秀賞1点 奨励賞1点

コンクール応援隊は、ひろしま住まいづくりコンクール2021 を応援しています。



Link to Good Living



コンクール応援隊に関しては、広島県住宅課にお問い合わせください。